旧第11通学区 高等学校教育懇話会
研究部会Ⅲ（安曇野）

報　告　書

令和３年３月１６日

目次

1　研究部会Ⅲの開催概要　…1

（1）身近な地域の高等学校からの聞き取り結果
（第2回）（第3回）（生徒との懇談）

■明科高校（学校長、同窓会、保護者、生徒、教職員）構成員の意見　…1
■豊科高校（学校長、同窓会、保護者、生徒、教職員）構成員の意見　…2
■南安曇農業高校（学校長、同窓会、保護者、生徒、教職員）構成員の意見　…4
■穂高商業高校（学校長、同窓会、保護者、生徒、教職員）構成員の意見　…7

（2）旧第11通学区の県立高校のあり方について（第1回）　…10

2　研究部会Ⅲの全体を総括した報告　…11

旧第11通学区 高等学校教育懇話会
研究部会Ⅲ（安曇野）　構成員名簿

区分	氏名	役職名	備考
教育長	橋渡　勝也	安曇野市教育長	部会長
教育長	樋口　雄一	生坂村教育長	
産業界	千國　茂	あづみ農業協同組合代表理事組合長	
産業界	平林　正吉	松本機械金属工業会会長	
産業界	降幡　真	長野県建設業協会安曇野支部長	
産業界	髙橋　秀生	安曇野市商工会会長	
ＰＴＡ	出水　雄二	安曇野市ＰＴＡ連合会会長	
中学校長会	内川　雅信	安曇野市中学校長会長（三郷中学校長）	
高等学校校長会	保坂美代子	豊科高等学校長	
座長	荒井英治郎	国立大学法人　信州大学	ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ

事務局

市町村教育委員会	安曇野市、生坂村
長野県教育委員会	

1　研究部会Ⅲの開催概要

会議	日時	場所	備考
第１回会議	R2. 11. 20(金) 14:00～16:00	安曇野市役所	
第２回会議※	R2. 12. 24(木) 14:00～16:00	安曇野市役所	明科、豊科
生徒との懇談会	R3. 1. 22(金) 17:00～18:00	穂高商業高校	生徒６名
生徒との懇談会	R3. 1. 26(火) 16:00～17:00	明科高校	生徒６名
生徒との懇談会	R3. 2. 1(月) 16:00～17:00	豊科高校	生徒６名
生徒との懇談会	R3. 2. 4(木) 16:15～17:15	南安曇農業高校	生徒６名
第３回会議※	R3. 2. 12(金) 17:00～19:00	安曇野市役所	南農、穂商
第４回会議	R3. 3. 1～R3. 3. 8 とりまとめ	―	書面会議

※第２回、第３回会議では、学校長から現状と課題について説明を受けた後、同窓会役員、保護者代表、教職員代表から聞き取りを実施し、「これからの高等学校はどうあったらよいか」について、それぞれのお立場からお考えを伺った。

また、生徒との懇談会では、高校生活、学校の魅力、夢や希望、少子化と高校のあり方などについて、考えを聞いた(各校に事務局が出向き非公開での聞き取り)。

（１）身近な地域の高等学校からの聞き取り結果
（第２回）（第３回）（生徒との懇談会）

■明科高校【全日制・普通科】

同窓会　２名

・地域の方々が目をかけてくれて生徒が地域と接する機会が増えたことは、地域のことを経験でき、自分の将来を考えるきっかけになる。地域のことを学び、地域の魅力を知ることは、若い力が地域に残るきっかけになる。地域が高校と一緒に生徒を見守ってくれているところが明科高校の特色だ。

・近隣の市町村でバスの運行も継続していければ通える学生は絶対にいると思う。

保護者　２名

・明科高校では、情報処理とか英検などの検定について個別授業をやっている。もう少し充実させていけば、生徒たちもやる気がどんどん出てくるのではないかと思う。

生徒　６名

・保育園、幼稚園との交流は、将来、保育士等を目指す人にとって良い経験になると思う。

・地域の方との活動の場や機会、幅広い年齢層との交流がしたい。

・高齢者の方とのふれあいが大事だと思う。

・高校を卒業した年齢の近い先輩方から身近な話を聞く場があればいいと思う。

・地域の方の話を聞く機会がとてもよい、話に興味が持てる。聞く気さえあれば、すぐに年配の方に聞ける環境が魅力。

・学校はすごく活気がある。明科地域からすごく大事にされている。
・学校では携帯電話の回収があるので授業に集中でき、友達との会話もすごくできる。

○以下は「少子化と高校のあり方」についての質問に対する生徒の発言

・現実的に統合は避けられないと思うが、地域の方々は「明科高校が無くなってほしくない。」というのを聞いた。個人的にも、人口が減少しても統合をしないで、残ってほしい。
・統合の話を聞いたときに「統合もありかな」と思ったが、明科高校は地域の方々に支えられているし、関わり合いが多いのでそれを土台にして、明科高校の良さを残してほしい。
・明科高校が無くなることに賛成はできない。地域の方々との繋がりや先輩が築いてくれた歴史があるから。でも、統合することで、長野県全体が活性化するなら仕方ないとは思う。
・統廃合で、明科が無くなるのは残念だけど、人数が減るのは止められないのでしょうがない。新しい学校になったら、新たな地域との関りをつくり、明科高校や他の学校の強みをミックスして、もっと良い学校が出来たらいいと思う。
・少子化で、話し合った結果なら、統廃合はしょうがない。でも残ってほしい。

教職員　２名

・本校の特色は３点。少人数で、一人一人に目が届くこと。ほとんど地元に就職をしているので、地域の人材としての魅力もあること。カウンセリングの体制が非常に充実していること。
・生徒にとっては、いろんな大人と関わることはとても大事なことだと感じている。地域からは、明科には絶対明科高校が必要だという声をたびたびいただく。
・小規模校のメリットとして日本中、世界中につながっていろんなことができ、小回りが利いていろんなことに挑戦しやすいし、すぐ動ける環境にあると感じている。
・小中学校のときにあまりうまく学べなかったことを、もう一回きちんと学び直したいという気持ちで入ってきている生徒たちがたくさんおり、学び直しの授業が魅力の一つ。
・生徒数減については危機感を持っており、どうしたら生徒が集まるかを生徒や地域の方からも意見をいただいて、魅力につながるようなことを、さらに高めていきたい。

構成員の意見

・明科高校が、地域に根差して本当に地域を大事にして活動しており、それが地域の皆さんへの信頼につながっている。

■豊科高校【全日制・普通科】

同窓会　２名

・豊科高校のいいところは、生徒が大きな声で挨拶をしてくれる、穏やかな校風であると思う。一方で、積極性に欠けるという面もあるので、是非育てていってほしい。
・少子化が進む現在、高校の統合というものは絶対必要。さらにもっと遠くから多くの生徒さんが来られるような学校にしていかなくてはいけない。普通高校の中にもいろいろな学科を取り入れて、将来夢のある広がりのある高校になってほしい。

保護者　２名

・豊科高校は、このままであってほしい。豊科高校は、小学校、中学校でスポーツを頑張って

いる子にも、吹奏楽をやっている子にも、オープンな学校だ。
・松本市内の公立普通高校や私立高校との違いを鮮明にすることが非常に大事なことだ。また、より進路希望に応えられるような教育の質を生かす取組をしてもらう。そして、特色のある学科をつくってみるとか、そういった工夫もこれからの豊科高校には必要だ。
・保護者としては是非子どもたちの率直な意見をどんどん取り入れていただきたい。

生徒　６名

・松本や長野の高校とリモートで文化祭の会議をした。情報交換・コミュニケーションが取れてとても良い経験だった。生徒会だけでなく、生徒間でもっと、そういった繋がりをしたい。
・地域の方達に支えてもらっているので、ゴミ拾いなど少しずつ活動できたらと思う。
・市内の農業高校・商業高校と連携をとってみてもいいと思う。将来、農業や商業の方に進みたい人もいると思うので、お互いの情報交換ができたら将来に繋がると思う。
・連携という経験がないので、これからは、この地域の方や地元の企業や、豊科高校出身の人達から、これからの進路に向けての話を聞く機会があるといいと思う。
・学校の特色・魅力は、穏やかな高校。安心して勉強や友だちと話ができる。豊高にしかない強みを一つでも創り出したい。
・校風を知ってもらうには、情報を発信していかなくてはいけない。生徒だけではなく、地域の人たちにも楽しんでもらえるような活動をしていく必要があると思う。
・授業の進み方が早すぎず、わかりやすい。勉強も部活も頑張りたいと思う子に、豊校は自分のスピードでできることを伝えたい。

○以下は「少子化と高校のあり方」についての質問に対する生徒の発言

・母校が無くなってしまったら、と考えると悲しい。統合の問題は難しい。
・少子化問題を考える意識が低いと思う。
・高校の授業料や中学等の給食費を無償化する等の良い環境が整っていれば、人口も増える。
・６年間英語の授業をしてきたが、海外に出ても使える英語の授業をしてほしい。
・各校にそれぞれ特色があると思うが、統廃合するのであれば、両方の良いところを足して、より良く出来たらいいと思う。使われなくなった校舎は壊さず、再利用方法を考えてほしい。
・統廃合はしてもよいと思っている。これだけ人口が減るのであれば統廃合も仕方ない。都会の人口を地方に向けるようなことをすればよいと思う。

教職員　２名

・豊科高校の卒業生は、地元に戻りたいとか残っていたいという生徒がとても多い。親御さんも帰ってきてほしいという方はとても多い。生徒に好かれている学校と感じる。
・生徒は、少子化についてとても心配している。そうなっていくことが目に見えているのであれば、ＩＣＴだけでなく、トイレであったりとか、まだ昭和の学校なのでそういうものも少しずつ変えていかないと、入学してきたときに小中学校との格差に驚いてしまうことになる。また、少人数学級でやってほしいと願っており、私もそういう授業展開をしたい。
・安心して学ぶ環境、そこにわくわくした心、子どもたちが毎日学校に行きたい、学校に行って学問を含めて、部活動から人として生きる力を養ってほしいと、これを是非豊科高校で、今後も続けてほしい。生徒自らが学校をつくる、子どもたちの潜在能力をもっと我々が信じ

てあげる、そういうことが今後必要じゃないかと感じている。

構成員の意見

・個人的な考えだが、明科高校と豊科高校が統合するというような形は、これから先の一つのケースになると思う。地域という一つの枠組みで見たときには明科高校が進んでいる、逆に生徒を主体とした活動といった部分では豊科高校が進んでいる、そういう印象を正直受けた。もし二つの学校が混ざり合うことでできるのであれば、互いに補い合う関係にもなり得るのかなというふうには、お聞きして率直に思った。

■南安曇農業高校【全日制・農業科（ｸﾞﾘｰﾝｻｲｴﾝｽ科・生物工学科・環境ｸﾘｴｲﾄ科）】

同窓会　２名

・中信地区唯一の農業高校を存続してほしい。

・少子化を理由に機械的に削減するのではなく、少子化を押しとどめるためにはどうしたらいいかを考えるべき。教員をより厚く配置して、安曇野の文化や地域のあり方を積極的に教育課程に組み込んでいくことによって、学びの楽しさがわかると思う。多様な生徒の学びの場をなくさないでほしい。南農高校は魅力ある学校だ。

保護者　２名

・南農高校では、各種団体の方々が学校に来ていろいろな授業をしてくれる。そういった中で生徒は社会の仕事の仕方や先進的な学びをしており、このおかげで地域の企業に就職してもリーダー的な能力を発揮している。さらにこの学びを深められるような環境を整えていただきたい。

・南農高校の本年度の募集では定員を上回って多くの希望があったことから、県は職業高校のあり方を見直して、要望に応えられるような再編計画を考えていただきたい。

・南農生は、地元の小学校との交流や地域イベントでも活躍している。子どもたちも南農生にあこがれを持っている。地域に根差し田園を守り地域を守る学校を考えてほしい。

生徒　６名

・高校３年間は、中学では経験できなかったことを経験できた。他校と違うところは、実習がたくさんあり外で体を動かすことが多く、何かと触れ合うことができることが南農の魅力だ。

・コースの活動が充実している。１、２年生は校外での活動が多い。他の農業高校とオンライン授業を行った。

・生徒一人一人が充実した高校生活を送る行事が沢山ある。研究活動が３年間で大きな割合を占めていた。ワサビの研究等、地域のために研究をしてきた。

・３年間、同じクラスのため実習の中で協力していくことで、人間性が高められた生活だった。

・総合的な学習は、地域の方とのふれあいの授業や販売学習等、将来に繋がる学びをしたことが有意義だった。課題研究は自分で解決していく力、生徒同士も協力して解決しようという力が養われてきていると思う。

・農業クラブの活動で、市内外の高校とのオンライン意見交流会や、ＩＣＴを駆使し交流した。

・花の販売実習をしている。地域の方や企業、保育園、老人施設の方たちが声をかけてくれる。
・第２農場で飼っている動物を地域の方が見に来てくれて、交流できる時間が楽しい。
・ＪＡの女性部の方たちと漬物を漬けて交流をしている。その時に困っていることを聞いて卒業研究にしようと思った。アクアピアの見学から卒業論文のテーマになったこともあり、地域の連携から発想を得るものが多い。
・バックホーや測量機器の難しい操作が必要なとき、建設業の方たちに講習会を開いてもらい技能習得ができることがうれしい。
・地域との関わりの回数を増やしてＰＲしていくことで興味を持ってもらえれば、中学生にも伝わって南農に入ってみようと思う人が増えると思う。
・本校の特色・魅力は、少人数学習だと思う。１クラス40人で、そこから３コースに分かれ12人～13人くらいになる。先生も注意深く見てくれる。
・多くの資格が取れることに魅力があって入学した。先生方のサポートも手厚い。他校では経験できない、大きな機械や精密機械の操作できることが大きな魅力だと思う。
・外部と交流することで、南農の魅力が発揮されると思う。
・中信で唯一の農業高校なので、もっと就農できる農家を増やしたいと思うなら、直接農家になるような教育があってもよいと思う。
・南農は、農業とか動物・花というイメージがあると思うが、土木だったり、測量だったりと注目されづらいところをもっとＰＲできればと思う。

○以下は「少子化と高校のあり方」についての質問に対する生徒の発言

・30年後、40年後に自分の所属していた学校が無くなるのは寂しいので、できれば残してほしいとは思うが、少子化で統廃合も仕方ないのかなとは思う。
・農業人口が減っている。高校生の段階で農業に興味がないというのも原因だと思う。南農の魅力である少人数授業を残してくれないと、統廃合には反対。須坂園芸高校が、いつの間にか校名が変わっていたのにはショックだったので、統廃合は良く思わない。
・どこの高校も、自分の母校が無くなるのは寂しいと思う。統合した高校ができたため、他の農業高校に影響が出た。農業クラブの活動をしているとき、合併した高校があると活動できる範囲が狭まり、自分たちのやりたい活動ができなかった。統合して大きくなったが、動きにくいと感じた。
・少子化について、南農は少人数校なので今まで実感がなかったが、データを見て驚いた。統廃合も仕方ないと思うが、寂しいと思う。自分たちのできることをやるしかない。
・統廃合は仕方ないと思う反面自分たちがそれぞれの学校の歴史があるので、少し抵抗はある。
・将来、自分の母校が無くなっているのはショックなことだと思う。３年間生活してきて学校の良さを知っているからこそ、下の子たちにもぜひ来てほしいと思っている。長い歴史があるので、学校の良さをＰＲして統合せずに、このまま残って行けたらいいと思う。

教職員　３名

・私は本校に来て14年目になるが、当時から変わらない取組みが、３年生全員が取り組む「卒論（総合的な探究的の時間）」、地域との交流と開かれた学校づくり、計画的なキャリア教育の３つである。特に卒論は、昭和24年から取り組んでいる伝統的で探究的な学びになる。これらの取組みの結果として、地域を支える人材を生み出していることが本校の良さだ。

・今年は３割が就職、進学が７割といった状況。就職はコロナ禍の中だったが、食品関係や土木関係では第１希望に100％合格した。本校に対する企業の期待の大きさを実感した。県外就職はほとんどおらず地元企業に就職している。４年制大学には農業高校枠の高校推薦で合格するだけではなく、総合型で合格していく生徒も多くいる。日頃の授業で養っている課題に対して主体的かつ協働的に解決するという経験が、自己推薦の際に生かされている。また、本年度は農業大学校、林業大学校に合格する生徒が９名おり、実践的な学びを通じて即戦力として地元に貢献できる人材が着実に増えている。

私は様々な学校を回ってきたが、本校は生徒の伸び代がとても大きい。生きる力、社会に出て即戦力となる力を養い、社会が必要とされている人材に成長している生徒が多い。

農業を通じて生徒が自分に自信を持ち自分を必要とされていることを実感し、そして就職あるいは進学して、将来地域に恩返しができるそういう高校になっていると思っている。

また、地域の中で本校の果たす割合は大きい。交流を通じて地域を知り地域の方々に支えられていることを生徒たちが実感することによって地域から大きな力をいただき自信をつけ成長してきているように思う。進学した生徒の中には地元に戻り農業法人や関連企業に就職している生徒が多い。このような取り組みを続けていくことにより地域に生徒の可能性を伸ばしていける学校でありたいと思う。

・本校は９のコースがありそれぞれの特色を生かしながら様々な活動に取り組んでいる中で、地域に出て生徒たちが開発したものを販売するとか、地域の専門家の人を呼んで講習を受ける、そういったことが平日の授業時間の中で可能になっており、３年の卒論とか１年、２年のプロジェクト学習に生かされている。資格取得にも力を入れており、地域で活躍できる人材を輩出できている。

○以下は、構成員からの「これからの産業構造の変化や六次産業化に対応した総合技術高校などの新しい学校の必要性について、高校現場ではどう考えているか」の質問に対しての教職員の発言

・県内にはいくつかの総合技術高校、あるいは総合学科という学校があり、それぞれ特色があって、目指すものが少し違う。特に、本校は農業高校なので、農業の六次産業化を目指している。これは、農業の分野の中で守備範囲を広げていく、あるいはかなり専門性の高いところまで追究していく、という夢を描いていくということが見えてくる。スマート農業もこれに関わってくるが、なかなか今の状況ではここまで繰り出せないという状況である。農・工・商の連携は意義はあり、重要な視点、社会から見れば当然、農業だけ、商業だけ、工業だけという生活はないわけで、全てが融合していると思う。本校が目指すとすれば、農業の六次産業化という視点については、学校ごと何に視点を置いているかによって、総合技術なのか、総合学科なのか、単独で目指すものがあるかというところはある。そこは地域の皆様や広く言えば学生あるいは保護者の皆様に意見をいただきたいと思う。

・農業の中の六次産業というものは10年、20年前から言われていることであって、そういった中では南農高校の生徒は専門的に学びができていたのではないかなと思う。

・今は、南農高校教員だが、２つ前までは穂高商業高校に勤務していた。両校とも入って来るときの目的がとても違っていて、この３年間の学びで私はこんなことを学びたい、ということを体験学習会とか様々な学校説明会とか、そんなことを経て入ってきている生徒たちである。総合技術高校の良さもあるが、３年間それを突き詰めていくことによって、得られるも

のがとても大きいのではないか。

・総合技術高校は、北信に須坂創成高校があるが、近くに商業高校と農業高校があったということで、それぞれ特色のある学校だったが、統合によっていくつもの地域連携等がなくなってきた。私は、農業科職員なので農業科としての、例えばインターンシップが行っていたものも統合と共になくなった。統合によるメリットというのも人数的なところで、生徒人数が減ってきているので、部活動の存続はあるかと思うが、それぞれの専門性をどうやって活かしていくかといったときに、例えば、北信であれば商業のマーケット。これが、どうしても日程的に取れなくなってきてしまう、縮小せざるを得ない。ということもあった。また、命を扱うこういった十分な時間が取れなくなってしまう。ということは総合技術高校になることによるデメリットというふうに考えてもいいのかなと思う。ただし、高校間連携による視野の広がり、あるいは探究的な学びを更に深める、そういったメリットもあるのかなと思う。ただ、それについては統合ありきではなくて、それぞれ高校間連携という形でも十分生かしていけるのではないかなと思う。

構成員の意見

・農業、バイオテクノロジー、環境に対する取り組みは、もう完全に世の中の中心になってくるだろうというところでいうと、本当に魅力的な高校であると思う。地域社会との結びつきでは、学びの中で非常に有効だと思うが、反面、生徒を地域にあまり絞りすぎてしまう、あえていうと縛ってしまうようなことにならなければいいと思う。地域から出て、安曇野に戻ってきたいというふうに思わせるのは私たち大人の仕事であって、そのためには、ぜひ「世界に飛躍」というところを前面に押し出して、世界に通用するような、安曇野の若者を育てていただけたらなと思う。

・これから子どもも少なくなって、学校の数をどうするだとか統合するんだとか、そういう話になってきたときに、子供たちにとって学びがすごく窮屈になってしまうんではないかということが、心配だ。そう考えたときに高校と専門高校が、何らかの形で交流等ができて、お互いに学びの互換性のようなものが作れたら良い。普通高校として、これから探究型の学習を進めていかなければいけないところで、専門学科は探究型のエキスパートだから、普通科の高校としては非常に学ぶところがある。逆に、普通校から、例えば進学、大学進学者の指導とかそういったところで、お手伝いができるのかもしれない。

■穂高商業高校【全日制・商業科（商業科・情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ科）】

同窓会　３名

・３年前に約1万3千通の署名を県に提出してある。県は合併ありきで話を進めている傾向がみられる。穂商は106年、南農は100年、豊高もあと2，3年で100年、地域にバランスが取れて点在している。こうした地域性と学校の伝統を考えていただきたい。少子化を理由に、３校統合することは同窓会として納得いかない。来年の３月に県の方針が出る。出てからでは遅いので、こういうことははっきりしていかなければいけない。県内で総合技術高校がないのは11通学区だけだが、なぜそれが安曇野市なのか、松本市にもそういった案を示していただきたい。３校統合するなら、場所はどこなのか。生徒の数はどうするのかなど県の方針を１日

も早く出してもらいたい。
・南農・穂商、両校とも残してもらいたい。私立のほうが公立より人気があるのは、いい先生を私立が引き抜いてしまうから。公立も給料を上げることができないか。
・穂商は、地域とのつながりを持ち続けている、これを活かして、地域に根差したものを継続させていきたいことが願いである。専門高校の必要性をもっと議論すべき。

保護者　１名

・穂商は、まじめで、こつこつと一生懸命の人材が多く、地域に根差した学校である。穂商の強みは、県内に誇れる資格取得をとる生徒が多い。そういった教育に重点を置いている。こうした強みをもてる魅力ある学校にしていっていただきたい。

生徒　６名

・穂商マーケットでは、小学生を招いて実際に働いて、体験する。小学生だけでなく中学生にも知ってもらえば、進路学習にも使えると思う。
・選択のマーケティング授業で、いろいろな先生や社長さんたちを招いて話を聞いており、とてもためになっている。活用する場があれば広がっていくと思う。
・穂商マーケット・文化祭等を開催するときに、本校の魅力を伝える機会を増やせればと思うし、地域の人や企業のかかわりも多いので継続していけたらと思う。
・商業科なので、他の学校では学べないことができる。資格取得も他の学校よりも多いし、全校生徒が主体で接客するマーケットは商業校でしかできないと思う。
・商業について詳しく学び、いろんな検定を取得することができるので、将来に繋がる。
・商業科ということで、人とのコミュニケーション能力とか、すぐに就職することには強いと思う。即戦力になることが一番の魅力。
・中学の時には学ぶことのない、商業を学べるということ。社会に出てから役立つことを優先的に学べることが魅力。

○以下は「少子化と高校のあり方」についての質問に対する生徒の発言

・少子化について考えたことがなく、（15年後に）71％になるデータを見てビックリした。少子化対策を日本全体で考えていかなくてはいけないと思った。
・今後、学校が統合されるのは、いろんな人が集まって情報が共有されるからいいと思う。
・将来、他の学校と統合するという話が出てきているが、違う科目の学校が集まると思うので、それぞれの学校の良さだけは残して、いろんな学びができていけたらいいと思う。
・大町市で小中学校が統廃合するという話が出ていたり、数年前、大町高校と大町北高校が実際合併して大町岳陽になり、使われなくなった大町北高校がＣＭの撮影で使われたりして、別の事で再利用されている。人数が減って、まとめられるのは悪いことではないので、前向きに検討するのもいいかと思う。
・近いうちに合併することが決まっていると思うので、科を分けた一つの大きな学校を造れば良いと思う。
・各校の入学者が減ってきたときは統合という考えもいいと思う。周辺地域で専門分野を学べる学校が多いので、その部分での統合は難しいと思う。

教職員　２名

・残念ながら定員を割ってしまっている現状であるが、入ってくる生徒は、商業科という特性のある学校へ目的意識を持って入ってきてくれている。本校の特徴としては、少人数の授業展開を行うことで専門性を深めることができている。資格取得ができるという強みがある。地域に残っていたいという生徒が多い。

・穂商マーケットには１日1,000人のお客さんが来られ、地域の期待が高い。生徒もマーケットで利益を求めるだけでなく、地域に支えられていることを実感しているし、地域に貢献したいという思いが強くなっている。取引先、仕入れ先は地域の企業である。

○以下は、構成員からの「これからの産業構造の変化や六次産業化に対応した総合技術高校などの新しい学校の必要性について、高校現場ではどう考えているか」の質問に対しての教職員の発言

・総合技術高校は、他地区の学校をみると商業科・工業科・農業科が基礎にあって、一部分他学科の学びを学ぶ機会を設けて、視野を広げていく形。穂商ではデパートサミット事業を今やっており、南農高校も参加していただいている。南農さんが入って気が付いたことは、商業科の生徒に「アップルパイを作って」と言うと、リンゴを買ってきてアップルパイを作るが、南農さんは「どの品種か」って言う。リンゴかオレンジかイチゴかって分けるのが商業科だが、南農さんはどの品種のリンゴで作ればふさわしいアップルパイができるかという視点で意見交換をし、非常に刺激になった。ある程度の学校規模があれば、学校全体の部活動とか人数が少ないことで出来ないことは改善されていくと思う。今でも、お互いの学びを共有している場面はある。

・穂高商業では、３分の１の授業時数の中で専門性を深めているということで、現状維持で構わないのではないかと思う。あらゆる社会の中で、生き抜いていく知識とすれば、他分野にわたって学ぶこともあろうということは否定できない。

・穂高商業は、今まで何十年と４学級でやってきたが、今の２年生から３学級になって、生徒へは目が届く。規模が小さいっていうデメリットよりはメリットを感じている。

構成員の意見

・商業を目指すという意味でいうと、いわゆる普通科で学ぶのは知識だと思う。物事は知識だけでは当然進んでいかなくて、実践というか経験が結びついたときにはじめて価値の高い体験になって成長に繋がっていく、こんな大きな流れがあると思う。穂商マーケットとかお客さんと直接つながるようなイベントの価値はすごく高い。そういう体験の中で、人にものを提供するときに、お金ももらえるが、それ以外のおいしいよって言葉だとか、そういう感情として受け取るものもあって、そういう体験を通して彼らが、ホスピタリティーの精神を養えるのではないのかなというふうに思う。このイベントでそういう素晴らしい体験をしていくこともまずすごく大事だと思うが、せっかく商業高校なので、もっと日常の中にそういう体験をする機会があればいい。一番手っ取り早いのは、アルバイト。アルバイトをした後に何かしらの自分が得た体験を報告するなどして、体験を増やしていくということがなされていけば、より純粋な生徒が育っていくのかなと思う。

・各同窓会の方のお話の中で、存続に対して熱い思いもあったが、それを選ぶのは基本的には、これからの中学生だとか、高校生になっていく生徒さんたちなのかなというふうに

思う。この会の持ち方としては、具体的な、どういう方針かといったものを先に出してもらわないと議論にならないので、そこは、進め方としてはそうあるべきだなと思う。いきなりこの場になにか材料を提供されて、一生懸命考えて、その場で回答することは非常に難しい。事前にそのようなかたちが取れると、議論としては意味のあるものになるなと思うので、そのお考えは私も同感だ。

・普通科と商業科の連携のように専門学科同士の学校間連携であるとか、今やオンラインを含めたＩＣＴの環境がこれだけ整備されている中において、遠隔授業であるとか複数の学校による連携・協働の取組というのは、今、すぐにでも出来ることではないかと思う。

・各高校の説明を聞き、素晴らしい特徴があり、無くしてはいけないと十分理解できる。みんな残ればいいなと思う。人口減少の問題が、30 年、50 年経って、生徒が減っていった時に、生徒はどう感じるだろうと。その生徒は幸せなんだろうかと。そんな中で、生徒が「この学校に来てよかったよ」と思ってくれるのかと、私は生徒の立場に立つと、クラブ活動とか一緒にやりたいよね、クラブ活動の人数が足りないなんてことを言わないような、そんな人数は最低でも欲しいと思っている。学校を無くすとか合併するとかいう考えは良くない、みんなが残れるような方法はないか、うまく残っていく方法を考えるのがこの会だと私は思う。

（２）旧第 11 通学区の県立高校のあり方について（第１回）

構成員の意見

・旧 11 通学区の状況資料の説明のなかで、「流出入」という表記の仕方、言葉の使い方を考えてみたらどうか。

・切り口は人口減少だが、教育は 100 年の大計、単に数合わせではいけない。地域との関係というような論点も出てきている。私立高校でできないことは公立の役割ではないか。

・学校は減らすべき。要は先生も少なくなる、生徒も少なくなる、学校を統一して、例えば通学代とか全部ただにしてあげればいい。学校減らせばそういう費用はすぐ出る。高校というのはどちらかっていうと教養課程が一番だと思う。高校のあり方について議論するのに、どうして 11 通学とか 12 通学とか分けてやるのか。県全体でやるべき。

・11 通学区教育懇話会においては、生徒の意見をもっと集約したり、拾い集めたりといった活動があってもいい。子供の持っている感覚は、先を見て、何かを感じていると思う。ぜひ、子供たちの意見を、吸い上げていただきたい。

・子供が多様化しており、一方で規模のある大勢の生徒が集まって学べる学校を作るということと、もう一つは少人数での学びも保障できる学校も作る、そういう両方の方向でやっていけばいい。そして教育の質も変わっていく。子供たちの希望に応えるためにはある程度その多様性のある学びや、学科を作っておくということも必要ではないか。

・子供達が成長していく段階では、いろんな方と触れ合うことが必要じゃないかと思う。

・学区という一つの枠組みの中での動きという考え方でとらえると、県とか、国内全体に向け、安曇野が好きな人をもっと今後積極的に集めていく、そこは重要なポイントじゃないか。

・中学卒業者数が減っていく中で統廃合していかなければすべての高校が存続できないことは理解するが、結果的にそういうふうになったとしても、地域が、地域の学校にもっと関わりや当事者意識を持って一緒に考えていかないと、仮に新しい学校だけできたからそれでいいということにならないと思う。

2　研究部会Ⅲの全体を総括した報告

（１）旧第 11 通学区の県立高校のあり方について【第１回会議】

○構成員の主な意見

・教育改革は数合わせではいけない。私立高校の特色化が進む中で公立高校の役割をはっきりさせる必要がある。
・人口減少に対応するには、学校は減らすべきだ。
・生徒の意見を集めるべきだ。
・子供が多様化しており、大勢の生徒が集まって学べる規模のある学校と、少人数での学びの保障ができる学校の両方が必要だ。
・子供の成長段階では、いろんな人と触れ合うことが大切だ。
・この地域が好きな人をもっと積極的に集めていくことが重要だ。
・地域が、地域の学校にもっと関わりや当事者意識を持って考えていく仕組みが必要だ。

（２）身近な地域の高等学校からの聞き取りの結果について【第２回・第３回会議】

○４高校に共通する点について

・地域住民や企業等との「交流」「関わり」「ふれあい」を非常に大事にし、そのことが地域住民の信頼につながり、各校の特色や魅力となって受け継がれてきている。
・地域を支える人材の輩出に自信と誇りを持っている。
・多様な生徒が入学してくる専門高校、普通高校ともに生徒が自身の将来の方向性を定めるために、より多種多様な分野の体験を含むキャリア教育の充実を強く求めている。
・急速に変化する社会、これからの困難な時代を生き抜く生徒たちの教育に対して、高等学校だけでなく地域全体で、その責任を担うことが必要である。

○少子化に伴う今後の予想される生徒減・学級減について

・教科目と教員数、部活動等の縮小化を憂慮する声があるものの、専門学科は特にもともと「少人数」の学習環境で探究的な学びが伝統的に行われ、その教育効果が大きく、小回りの利いた体験的な授業展開ができ、教師のサポートも手厚いといったメリットが強みとなっている。
・落ち着いた雰囲気の中で安心して自分のペースで、学べる地域高校の存在価値は見直されるべきなど、現状のよさを失うべきではない。
・各校とも募集定員が満たないことがあるという現実には、強い危機感を抱いており、学校の魅力をより一層高めるために、地域の力を借りながらも何とかしていきたいと考えている。

○高校の統廃合について

・「必要ない」「反対だ」という意見と、「必要だ」あるいは「仕方がない」といった賛成、反対両方の意見があった。
・（生徒の意見）「現在のように、少人数で質の高い学びが保障されるか不安だから反対」「自校や他校の良さを合わせ持った、新たな学校づくりも有り」といった現実を直視する考えも示された。
・ＩＣＴ環境の整備が進んでいる中、バランスよく配置されている４校が相互に連携したり学び合ったりして、魅力づくりは今すぐにでもできるし、やっていくべきだ、積極的にやりたい、現状でもできることはある。

○旧 11 通学区に提案されている総合技術高校の設置について

・安曇野と隣接する旧 12 通学区だけでなく、松本にも、そして旧 11 通学区全体でも考えるべき問題だ。

・すでに設置されている県内の総合技術高校の新設により、統合前によかったと認識されていたものが引き継がれたのか、小回りが利かなくなっていることはないかなどについてもしっかりと検証し、そのうえで新しい学校の必要性や具体的な姿、位置などについても丁寧に説明する必要がある。

・専門高校で長年その教育に携ってきた高校現場からは、六次産業化への対応など時代のニーズ等に合わせて学びの環境を整えてきている状況があり、農業と商業で交流したよさも語られたが、ぜひ設置してほしいという意識までは感じ取ることができなかった。学校現場や同窓会、地域への納得できる説明と理解・協力が必要である。

今回の意見聴取の中で、普通科の特色や魅力づくりの必要性についての意見も複数あったことから、専門学科とともに普通科のあり方も改めて問い直す必要がある。県全体の目指す教育ビジョンを県民全体が共有できるように説明し、地域の声をしっかり受け止めるとともに、一つ一つの疑問や要望に対して真摯に耳を傾け、丁寧に応えていくことが、これまで以上に求められる。

最後に、研究部会Ⅲの意見聴取にご協力いただいた関係者の皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。